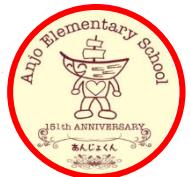




令和6・7年度 熊毛地区研究協力校(学力向上)

西之表市立安城小学校



研究の概要 ~Research overview~

令和7年度 ブラッシュアップ熊毛 ～確かな学力の育成～

- 「学習者主体の授業」を実現する「こだわりの視点」の共通実践
- 確かな学力を育成するプランニングと確実な実践・見届け
- 教科横断的な資質・能力の育成

確かな学力

じりつした学習者

令和7年度 西之表市の学校教育 ～ひとりだちの教育「知の自立」～

- 自ら学び、深く考え、よりよく判断する児童生徒の育成
読解力向上を目指した授業改善
図や表、グラフと文章のどの部分が関連するのかを考え、自らの根拠を他者に伝えられるようにする。

自他を大切にしながら、主体的に自らの学び方を向上させていく子供

学校教育目標

自他を大切にし、ともに学び、ジリツして生きる。

明るい子

「心」の自律

- 礼儀正しく、素直で思いやりのある子供
- 「共有体験」と「感情の共有」を充実させた教育活動
- 自己肯定感(自己有用感)の育成

自ら学ぶ子

「知」の自立

- 進んで学び、自分の意見や考えを表現できる子供
- 「じりつした学習者」を目指した授業実践
→ 対話をとおして思考を深め合う
授業の継続と言語能力の向上

元気な子

「体」の自立

- すこやかな心と体をもち、ねばり強くやりぬく子供
- 学校・家庭が連携・協働したう歯齦患防止
- 個に応じた歯みがき指導と間食のとり方指導

子供の実態

- 多くの自治活動
- 地域全体に見守ってもらえる環境
- ガイド学習の定着
- 自己肯定感の低さ
- 学力の二極化

授業づくり

～メタ認知能力向上～

自己認識・自己調整・自己省察

じりつした学習者を目指す3実践

心づくり

～自己肯定感向上～

環境づくり

～主体性向上～

小・小連携の推進

(現和小学校)

- 共通のゴール(主題)と、異なるアプローチ(副題)の設定

小・中連携の工夫

(種子島中学校)

- 相互授業参観
- 意見・情報交換

研究主題 ~research topic~

令和7年度

じりつした学習者の育成 ～対話からつながる主体的・協働的な学びの実現～

令和6年度

自ら学び、協働しながら考えを深めようとする子供の育成 ～対話からつなげる自己有用感の高揚を目指して～

これまでの研究 ~Previous research~

R5 自己を見つめ、生き方についての考えを深めようとする子供の育成Ⅱ ～対話から生まれる「考え、議論したくなる」授業デザイン～

R4 自己を見つめ、生き方についての考えを深めようとする子供の育成 ～子供自らが「考え、議論したくなる」授業デザイン～

R3 子供自らが考え、議論したくなる授業づくり ～考えたくなる発問の工夫を通して～

社会の要請

- これからの中学校においては、【中略】これまで以上に子供の成長やつまづき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる。
- 「協働的な学び」において、同じ空間で時間を共にすることで、お互いの感性や考え方等に触れ、刺激し合うことの重要性について改めて認識する必要がある。

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)(中教審第228号)

授業づくり～Creating Lessons～

1 単位時間の中にAAR(見通し⇒行動⇒振り返り)による学習プロセスを設定し、繰り返し実践していくことが、子供のメタ認知能力(学び方が分かる)の向上につながり、学びに向かう力の向上、確かな学力の育成につながるのではないかと考えている。

本校では、AARの各段階に、自己認識する場、自己調整する場、自己省察する場を設定し、その継続的なサイクルにより総合的に養われた学ぶ力をメタ認知能力と定義して実践している。

Anticipation(見通し)

自己認識

課題に対する認知の状態を把握し、解決の見通しをもつ力を高める場

Action(行動)

自己調整

見通しを基にして、自分の学習を調整し、考え方や思いを適切に表現する力を高める場

Reflection(振り返り)

自己省察

自分の学習を省察し、次の学びへつなげていく力を高める場

実践例（3年：本時「1けたをかけるかけ算」）

○指導の手立て ◆評価 ☆こだわりの視点

- 学習過程の見通しをもつことができるように、板書プレートを貼っておく。
- 本時の学習内容を把握するために、ガイド係を中心に、学習課題から気付くことについて交流させる。
- 学習問題を焦点化するために、「これまで学習した筆算との違い」について考えさせる。

☆ 課題に対する認知の状態から解決方法を選択することができるよう、既習事項をもとに、解決の見通しをもつ場を設定する。

◆ 解決の見通しをもつことができたか。
【思考・判断・表現】

☆ 主体的・協働的な態度を養うために、自己解決タイムと対話タイムを設定し、自己調整しながら課題を解決する場とする。

○ 子供の自己選択を大切にするために、筆算も選択肢の1つとして認める。さらに筆算の仕組みを説明するために、具体物(ブロック等)も準備し、必要に応じて指導する。

◆ 自分なりの解決の方法を説明することができたか。
【思考・判断・表現】

◆(3位数)×(1位数)の計算の仕方が分かったか。
【知識・技能】

☆ 「ふり返り安城」を活用し、対話や協働、次時の見通しを意識した振り返りをさせる。

主な学習活動

- 1 前時の学習を振り返る。
- 2 本時の学習課題を把握し、学習問題をつかむ。

(1) 学習課題を把握する。

1mのねだんが213円のリボン3m分の代金はいくらになりますか。

- (2) 前時の学習と比較し、ゴールを予想する。

- かけられる数が3けたになっているね。
- (2けた)×(1けた)と同じようにできるかな。

- (3) 学習問題を焦点化する。

(3けた)×(1けた)の計算はどのようにすればよいだろう。



自己認識

- 3 解決への見通しをもつ。

- ブロックを使って考えてみよう。
- 筆算でもできるかな。

- 4 学び合う①【自己解決タイム】

- (1) 自分で決めた方法で自己解決をする。

- (2) ホワイトボードに考えを書く。

$$213 \times 3 = \begin{array}{r} 3 \times 3 = 9 \\ 10 \times 3 = 30 \\ 200 \times 3 = 600 \\ \hline \text{合わせて} 639 \end{array}$$



自己調整

- 5 学び合う②【対話タイム】

- (1) 自分の考えと似ているところや違うところを伝え合う。

- 位ごとに分けて考えているね。
- ブロックも式も位ごとに計算しているよ。

- (2) 相手の考えで分からなかったところを聞き返す。

- (3) 「はかせどん」の視点から大事な考え方を見つける。

- ブロックを使う考え方は正確だね。
- 筆算でした方が速くできるのかな。

- 位ごとに考えるといいね。(どんなときも)

- 6 本時のまとめをする。

(3けた)×(1けた)の計算も、位ごとに分けて計算すればよい。



自己省察

- 7 本時の学習を振り返る。

- 8 練習問題をする。(類似問題)



心づくり～Mind Building～

学校の諸活動、職員の活動はもちろんのこと、PTAや校区の協力をいただきながら、子供の自己肯定感を高める手立て、心づくりの活動を行っている。



あつたかタイム(朝活動)

自分の思いを伝えたり、互いの考えを認め合ったりする活動を通して、自己存在感の感受や共感的な人間関係の育成、安全・安心な風土の醸成につながっている。



にこにこカード(玄関掲示)

全校児童、全職員で行っている取組で、月ごとに相手を変えて、相手のよさを記述し合っている。よさを見てもらっているうれしさを実感したり、新たな自分によさに気付いたりする活動となっている。



ハッピータイム

毎週水曜日の昼休みは、児童会が主体となって全校で遊ぶ日を設定している。遊ぶ内容や時間は自己選択、自己決定し、達成感や課題意識をもつことにより、子供の自治的能力や主体性を高める手立てとなっている。



校内研修

子供が主体的・協働的であるためにまずは、まず教師がそうでなければならない。校内研修では一人一人が忌憚なく意見交換しやすい時間や場の設定を工夫し、よりよい授業づくりに取り組んでいる。



読み聞かせ活動

子供の豊かな心を育むことを目的として、読書時間による教員の読み聞かせや、家庭教育学級の活動で保護者による読み聞かせ(月1回)の活動を実施している。



PTA活動や地域活動

子供が、学校外でも達成感や成功体験をより多く味わうことができるよう、保護者や地域とも連携してPTA行事を計画したり、地域行事に参加したりしている。

環境づくり～Creating Environments～

見通しをもって学習に取り組む、考えを整理する、学習を振り返り、次の学びに生かす等、子供の学びをサポートする環境を整備することにより、子供の学習への主体性を高める手立てとしている。



板書プレート

子供が視覚的に学習の見通しをもち、安心して授業に臨むことができるよう、算数科における1単位時間の学習過程を全学年統一し、プレートにして掲示している。



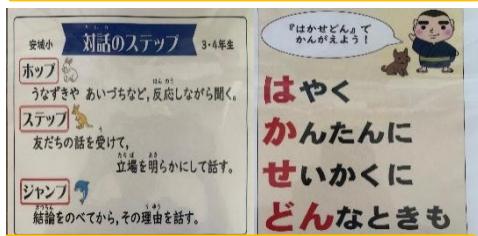
ガイド学習の手引き

各過程での指示の出し方や動きを明記し、いつも同じような流れで学習を進めることで、進行役としての自信や安心につながっている。



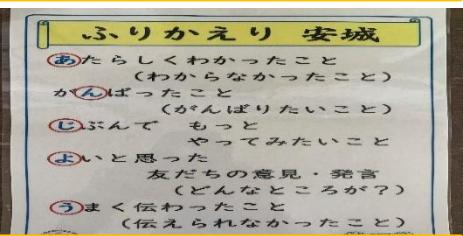
ICT活用

既習事項を振り返ったり、自分の考えを整理したり、表現したりする手立ての一つとして活用している。



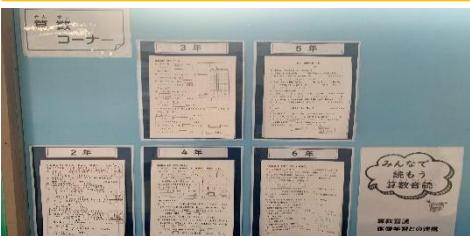
対話のステップ&はかせどんカード

子供が主体的に考えたり活動したりするための手立てとして、発達段階を考慮した話し方、聞き方の基準や、算数科における合理的な考え方を見出す手助けとなるツールを視覚的に示している。



振り返りカード

自身の課題解決の状況から、次時の学習への意欲や課題意識をもつことができるよう、振り返りのポイント例を示して、考えを整理するためのサポートツールとしている。



算数コーナー(音読)

既習事項のインプットとアウトプットの反復的なトレーニングにより、各学年の基礎的な知識の定着と、知識を活用した子供の主体的な学びにつながる取組として実践している。

小小連携・小中連携 ~ Strengthening cooperation ~



小・小連携研修

隣接する現和小学校とは、平成27年度から合同研修を行い、学校の枠を越えて研修を深めてきた伝統がある。令和7年度は、互いの研究教科が算数科であることを生かして、両校の研究主題を統一して、副題を各校の実態に合わせて異なるものにした。共通のゴールに向かって異なる指導法でアプローチすることで、その成果や課題を比較・共有し、さらなる指導法改善に効果的な取組となると考えている。

小・中連携研修

令和6年度は、校内の研究授業、授業研究に中学校の算数科の教諭も招いて小・中学校の算数科（数学科）学習指導について意見交換を行った。また、本校職員が中学校の数学科の授業参観も行い、中学校で実践されている自由進度学習の状況についても知ることができた。さらに年度末には、中学校の数学科の教諭が、本校の6年生に授業をする取組も行った。6年生が中学校の学習スタイルを知るとともに、中学校も本校児童の学習状況を知る機会となった。さらに6年生が、中学校に知っている先生がいるという安心感を与える機会となり、学習指導、生徒指導の観点からも、今後も継続して実施していきたい取組となった。

成果と課題 ~ Achievements and challenges ~

○ 本校児童意識調査(4月・9月)結果より(全校児童対象)

質問項目	4月	9月
1 自分の得意・不得意なところが分かる。【自己認識】	80%	100%
2 授業で分からぬところがあった場合、自分はどこが分かっていないかが分かる。【自己認識】	60%	73%
3 課題に対して、どれくらい自分でできるか予想することができる。【自己認識】	53%	66%

○ 全国学力・学習状況調査(学習状況調査)4月と9月の調査結果より(6年生4名対象)

質問項目	4月	9月
16 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。【自己調整】	3.50	3.50
37 授業で学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う。【自己調整】	3.50	3.25
36 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。【自己省察】	3.00	3.25
5 自分にはよいところがあると思う。【自己肯定感】	3.75	4.00
6 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。【自己肯定感】	3.50	3.75
32 授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。【主体的な学び】	3.00	3.25
54 算数の授業の内容はよく分かる。	3.00	3.50

○ 標準学力検査(NRT)「算数」通過率結果(学年平均) ※ R6 から継続して在籍している児童の平均

年度\学年	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
令和7年度	86.0	57.5	70.0	73.3	75.0
令和6年度	70.0	66.7	70.0	67.0	68.7

- 算数科の指導法改善や、学校生活等における諸活動により、子供の学びに向かう意識や自己肯定感が高まってきたている。
- 対話活動により、子供が相手意識、目的意識をもって表現しようとする態度が見られるようになってきている。
- 対話活動により、友達の発言に対する意識（理解しようとする態度や疑問等）も高まってきたている。
- 教児ともに、見通しをもった授業展開が図られてきている。
- 見通しを基に、教師の助言を受けながら、課題解決の方法を選択できるようになってきている。
- 子供の学びに向かう意識の高まりと、学力向上（数値的）の関連は、長期的に検証していく。
- 複式指導において「子供に委ねる場面」と「教師が指導する場面」を計画的に設定していく。
- 今後は、さらに導入時の学習問題提示の場面で、動機付け（内発的・外発的）の工夫・改善を行っていく。
- 指導者と学習者が目標や評価を共有するためのループリックの作成を計画的に行っていく。

～参考文献～

- ・ 文部科学省「小学校学習指導要領解説 算数編」平成29年度
- ・ 白杉亮「自己調整につながる学習理論をビジュアルでまとめました」明治図書出版社 令和7年
- ・ 友田真「自ら学びをコントロールする力を実践する自己調整学習 まず、子どもを全方位で支えその後、委ねよ！」明治図書出版社 令和7年
- ・ 伊藤崇達「自己調整学習の成立過程 学習方略と動機づけの役割」（株）北大路書房 平成21年
- ・ 森本隆史「算数授業を子どもと創る 授業を変える言葉とかかわり方」株式会社東洋館出版社 令和3年
- ・ 石田淳一「対話を楽しみ、学びを深める算数指導」株式会社東洋館出版社 令和3年

～研究同人～

川田 隆太郎	東津 一馬	今堀 崇悟	白坂 大智	郡山 千鶴
福森 加奈子	山口 真由美	横田 梨里香	小橋 鈴音	長野 佐喜代
中川 桜	(旧研究同人)	吉瀬 ふくみ	里 千夏	宇都 奈津希